

令和8年2月19日

長浜市議会総務教育常任委員会

資料

案件名	所管課	ページ
長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針の策定について（経過報告）	教育改革推進課	2

教育委員会事務局

所管委員会	総務教育常任委員会
所管局・課	教育改革推進課

案件名

長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針の策定について（経過報告）

1. 趣旨

長浜市学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針の策定にあたり、令和6年度に開催された長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会の意見のとりまとめにある「クラス替えのできる学校園の規模をめざす」を軸としてきたが、広域となる際の通学方法において、通学バスの台数増加に対応できない課題が明確となった。

このため、令和7年11月20日開催の総務教育常任委員会にて基本方針策定期日の変更を報告し、通学方法の確保に向けて、通学バスの今後の状況や他の方法の検討を行ってきた。また、小規模校を存続する場合や義務教育学校の設置、小規模化している幼稚園の在り方等についても検討を進めてきた。

本件は、この間に行った取組について、次のとおり報告するものです。

2. 策定期日変更後の経過および予定

令和7年11月20日 総務教育常任委員会（経過報告）

11～12月 今後の児童生徒推計および統合後の通学バスの想定状況把握
路線バスの運行ルート確認

12月27日 塩津小・永原小通学バス試乗（統合準備協議会委員）

令和8年1月14日 伊香具小通学バス試乗（統合準備協議会委員）

1月19日 通学方法についての協議（教育指導課）

1月23日 他市町の統合後の通学方法について調査

1月27日 伊香具小下校シミュレーション（児童・教員）

2月2日 通学方法についての協議（都市計画課交通対策室）

2月4日 伊香具小登校シミュレーション（児童・教員）

2月17日 塩津小・永原小登校シミュレーション

2月24日 塩津小・永原小下校シミュレーション

3. 課題

○市全体を見通した通学手段の見直し

- ・現在の通学バス運用の見直し
- ・新たな通学手段の導入

○小規模校を存続する場合の条件づくりと学びの保障

- ・小規模校のデメリットを最小化する取組

長浜市が目指す将来の学校園の姿

< 長浜市の現状 >

- ・児童数の減少により、小中・義務教育学校が小規模化し、複式学級が存在する。
- ・就学前児童については、低年齢からの保育、長時間の保育に対する保護者のニーズが高い。

視察やワークショップを受けて

	子ども	先生	保護者	地域
いまのすがた	①友だちは大事な存在で、関わりを大切にしたい。 ②単学級では、人間関係や集団の中での役割が固定される。リーダーはずっとリーダーのままになる。 ③友だちの個性や性格を決めてしまうことがある。 ④少人数の学級では多様な意見が出にくく、発想が乏しくなることがある。多い学級ではいろいろな意見が出て、発想が豊かになる。 ⑤不登校の児童生徒が増えている。	⑥仕事量が多く、負担が大きい。 ⑦子どもと直接関わる時間をより確保したい。 ⑧教材研究や保育・授業の準備に充てる時間を十分に確保したい。 ⑨教職員が不足している。 ⑩働き方改革を進めているが、負担軽減につながらない。 ⑪複式学級は、学校運営上負担が大きい。 ⑫保護者対応、地域との連携に時間がかかることがある。	⑬先生との信頼関係は重要だと思っている。 ⑭先生に思いや悩みをうまく伝えられない。 ⑮主張し過ぎてクレームだと思われたくない。 ⑯子どもに失敗体験をさせたくない。子どもを傷つけない。 ⑰子どもの話を聞いたり、宿題等を一緒にするゆりがない。 ⑱PTAからの発信や働きかけがあり、子育てについて学びの機会はある。	⑲地域と学校は一体、密接な関係である。 ⑳地域の方で、子どもの体験活動等が生まれる。 ㉑地域と一体となった学校行事を行うことで、人づり・まちづくりにつながっている。 ㉒学校がなくなると地域が衰退するのではないかと心配している。 ㉓ボランティアは高齢者が多い。 ㉔スクールガードがいない地域がある。

【学校で取り組んでいること】
・オンラインや合同による交流学習
・修学旅行の合同実施

子どもが幸せになる学校園をめざして

【保護者と取り組んでいること】
・PTA意見交換会
・学校の在り方を考える懇談会

【地域と取り組んでいること】
・学連協意見交換会
・地域づくり協議会へのヒアリング

めざすすがた	①友だちを大事にしつつ、自ら考え行動できる子どもになってほしい。 ①②③④多くの友だちと関わり、多様な考えに触れられるよう、可能な限り学年複数クラス編制にし、豊かな人間関係を構築する。 ④⑤ICTの活用により活動や授業が充実する。 ⑤学校を選ぶことができる選択肢がある。	⑥⑦先生がゆりもち、笑顔で、子どもと向き合える。 ⑥⑧教材研究や保育・授業の準備に充てる時間が充分にある。 ⑥⑦⑨⑩⑪学校統合をすることで、学校園の教員数が増え、業務の負担を減らすことができる。 ⑥⑦⑨⑩相談対応窓口や相談しやすい仕組みづくりにより、担任の負担を軽減する。	⑬⑭⑮学校園、先生との信頼関係があり、子どものことを相談できる。 ⑬⑭相談対応窓口や相談しやすい仕組みづくりにより、保護者と学校園がつながり、保護者が学校を身近に感じられる。 ⑭⑮安心につながる外部の相談先がある。 ⑮⑯特色のある多様な学校園があり、ニーズに合わせて選択できる。 ⑭⑯⑰子どもをほめ、認める存在でありたい。	⑲⑳⑱責任と自覚をもち、地域と学校を結びコーディネートをする。 ⑲⑳⑱大学等とのつながりや地域資源をいかす。 ㉑⑲統合後の跡地利用について、地域と連携し協議する。 ㉒狭い地域にこだわらず、より広域での連携を推進する。 ㉓⑲学校支援ができる持続可能なしくみをつくる。
	☆クラス替えのできる学校園の規模 ☆自分に合った学校を選択できる制度	☆先生が子どもと向き合える環境づくり ☆支え合える教職員集団づくり	☆子どもも保護者も安心できる学校園 ☆保護者のニーズに合った学校園を選択できる制度	☆学校園を支える地域 ☆学校園が、地域人材の活躍の場に

【全体をふまえた学校園の在り方】

○クラス替えのできる学校園の規模をめざす。
 学区、園区を見直し、旧町を越えた広域統合も視野に入れる。
 あわせて、通学通園の負担を勘案する。保護者や住民と十分協議する。
 ○学校規模や地域連携をふまえたに特化ある学校園づくり

○学校園と保護者・地域との連携促進
 ○長浜市内で子どもや保護者のニーズに合った学校園を選択できる制度の検討
 ○統合後の跡地利用における地域との連携